

八ヶ岳(テント泊)山行報告

【山行日】2015年 10月31日(土)～11月1日(日)

【集 合】 栃木市運動公園P AM 3:00

【費 用】 マイカー1台 : 7,500円

【メンバー】CL:鈴木、石川、岩淵、香川、関、津佐、
10月31日(土) 快晴 美濃戸から北沢経由で
赤岳鉱泉へ行き、中山展望所で眺望を楽しむ。

野木町役場 P5:00＝美濃戸 P8:55/9:15～赤岳鉱泉

11:25/12:30～中山展望所 13:00/13:20～

赤岳鉱泉 13:40(テント泊)

若い人達から「テント泊山行がしたい」との要望があり、講習を兼ねて八ヶ岳山行を計画した。

中央道が渋滞し、美濃戸の「やまのこ村」駐車場に30分遅れて到着し出発の準備をする。



共同装備表を見ながら、各人に分担したテントなどの装備や食材を渡し、ザックにパッキングする。

トイレとストレッチを済ませ、林道を登って行く。美濃戸山荘の先で、柳川南沢沿いに行者小屋へ至る道を右に分け、さらに柳川北沢沿いに林道を進む。カラマツ林の紅葉の中を歩き、会話も弾み皆余裕の表情。

やがてシラビソの林を歩くようになり、右手に祠があり白い骨のようなものが見えた。

林道の傾斜がきつくなり、一汗かいたところ林道終点に着き、橋を渡った所で休憩をとる。

ここから登山道に入り、赤岳鉱泉まで大小7箇所の橋を渡り、北沢沿いに左岸右岸を繰り返す。

北沢コースは8年振りに通るが、しっかりした橋に架け替えられ安心して渡れる。沢に降りて岩の間

を歩く道も、立派な栈道が架かりとても歩き易くなっていた。4番目の橋をから横岳や大同心、小同心の展望が素晴らしい。橋を渡った所で休憩

し、果物と菓子で水分とエネルギーを補給する。ここからいくつか橋を渡り、ジョウゴ沢を小さな丸

木橋で渡るとシラビソの樹林に入る。

樹林を抜けると、間もなく赤岳鉱泉のテント場が見える。赤岳鉱泉に着き、テント泊の受付を済ませテントを設営する。設営場所を決め、皆で石を拾い整地を行ってからテントの張り方を教える。

久しぶりに赤岳鉱泉に来たが、小屋の周りが整備され変わっていた。建屋の前から北側が木製のテラス状になっており、ベンチとテーブルが置かれて休憩や食事ができるようになっていた。





外の水場が撤去され、建屋の中に飲料水タンクがあり自由に水を使用できる。
荷物を整理して、テラスのテーブルでラーメンを作り、昼食を食べて中山展望所に向かった。赤岳鉱泉の前を通り、北沢沿いにシラビソの林の中を登って行く。やがて北沢を離れ、徐々に傾斜がきつくなり、ジグザグに登ると傾斜が緩くなり中山乗越に着く。標識に従って右に登って行くと展望が素晴らしい展望所に飛び出た。ここからの展望は見事で、阿弥陀岳から赤岳、横岳と続く稜線が大障壁のように取り囲み迫

力がある。風も無く穏やかで暖かく、梨や菓子を食べてのんびり過ごし、来た道を戻りテントに戻る。少しテントでのんびりしてから夕食の準備を始める。

本日のディナーは水炊きとサケのチャンチャン焼き&ポテトサラダと豪華。水炊きが炊き上がったころ全員集合。ポテトサラダを作り、ワインとビールで乾杯する。白ワイン、赤ワインがアツと言う間に無くなり、水炊きやチャンチャン焼きも食べつくす。持参のワインと焼酎が出るが飲み尽くす。



ビールと焼酎を追加し、宴は大いに盛り上がった。我輩は、明日に備えて6時で退散しテントへ。

若者たちは元気で、7時過ぎまで騒いでいたようである。

ところが就寝してからが大変だった。

晩秋のテント泊は甘くなかった。天気が良かった分、夜間は放射冷却で気温が下がりとても寒い。あるものすべてを着て寝たが、それでも寒く寒さに耐えながら一夜を過ごすことになった。

11月1日(日) 快晴 硫黄岳から横岳、赤岳の稜線を縦走し文三郎尾根から下山し美濃戸へ
赤岳鉱泉 6:00～硫黄岳 7:50～硫黄岳山荘 8:10/8:35～三叉峰 9:40～赤岳展望荘 10:20/10:40～
赤岳 11:20/11:55～行者小屋 12:50/13:10～赤岳鉱泉 13:35/14:05～美濃戸 15:20/15:35＝
野木町役場 P20:30

朝4時に起床し、朝食の準備を始める。お湯を沸かそうとしたが、汲んでおいた水が凍っていた。

鍋で溶かしながらお湯を沸かし、アルファ一米でご飯を作る。水炊きの残りに、カニ雑炊の素を入れ雑炊を作る。メンマと梅干をおかずには朝食を食べ、トイレとストレッチを済ませて予定通り6時に出発する。





赤岳鉱泉の前から、東側の樹林に入りトラバース気味に進む。ジョウゴ沢を渡って尾根に取りつき、硫黄岳への登山道を登って行く。

展望のない深い樹林の中、ジグザグの急登が始まる。

やがて樹林がダケカンバに変わると展望が開け、これから登る硫黄岳から赤岳までの稜線が望める。ハイマツ帯のザレた道をジグザグ登ると稜線に出て、さらに急登を頑張ると赤岩ノ頭に飛び出る。

ここからの眺望は素晴らしく、これから登る硫黄岳から赤岳はもちろん、北八や真っ白な北アルプスの山々がクッキリと見え大歓声が上がる。

休憩をとり、大展望を楽しみながら思い思いの風景を写真に収める。オーレン小屋への道を左に分け、白い砂礫の尾根を進み岩塊の間を登るとケルンがある硫黄岳山頂に着く。

展望は良いが、風が強く記念写真を撮ってから爆裂口を見て大ダルミへ下る。ここは風の通り道で、いつ来ても風が強くのんびり景色を楽しめない。大ダルミから、少し登り返すと硫黄岳山荘に着く。山荘側へ降りると、風は弱くなり陽だまりで暖かい。休憩していると、山荘の



御主人が「中に入って休めますよ。」と声を掛けてくれ、お言葉に甘えることにする。



トイレを借り、甘酒やココアをいただきのんびり休憩する。

ここからは本日の縦走路の核心部となる。

横岳の山頂からは、やせた岩稜を歩くようになり鎖やハシゴが連続するスリリングな縦走だ。岩稜の西側は風が強く寒いが、東側を歩くと風が無く上衣を着ていると暑く感じる。

皆さん鎖場やハシゴも難なく通過し、横岳山頂に着く。先客の登山者で賑わっており、順番を待って記念写真を撮る。

富士山もクッキリと見え、360度の大大パノラマを満喫し先に進む。岩稜のアップダウンは、慣れない我々には結構きつく時間が掛かり、三叉峰へは少し遅れて着いた。杣添尾根の道を左に分け、石尊峰を過ぎさらにクサリ場を下って稜線の西側を巻くように進む。右手は深く切れ落ち、なかなかスリリングな岩場を通過する。日ノ岳の東面を巻いて、ジグザグに下るとステップが刻まれた一枚岩に出る。鎖を補助に慎重に下り、わずかにトラバースして稜線に出る。ここまでくれば、緊張する横岳からの悪場は終わる。お地藏様が祀られた地藏尾根分岐を過ぎ、赤岳展望荘に着く。東側の温



かい場所で休憩し、緊張した体を休める。展望荘を過ぎると、危うい岩稜の急登が始まる。I 溯さんが辛そうだったが、180mを一気に登り上がる。岩稜を抜けると、ひと登りで赤岳頂上小屋が建つ稜線に出て、すぐ先が三角点と祠のある赤岳山頂だ。八ヶ岳連峰の最高峰からの360度の展望は素晴らしく、今までの辛かった歩きも一気に晴らしてくれた。記念写真を撮り、眺望を楽しんだら風の弱い東側に少し下りランチタイムとする。ラーメンを作り、富士山を見ながらのランチは格別に旨い。下山は、南のキレット方面

へ少し下り直ぐに右手に折れて、岩層がゴロゴロしたルンゼ状の岩稜を下る。鎖を頼りにペンキマークを忠実に辿り、慎重に降りて行く。中岳への分岐を左に分け、右の文三郎尾根を下る。砂礫に岩層が混じった滑りやすい尾根を、ジグザグに降りて行く。

さらに鉄や丸太で補強された階段を下り、ダケカンバの樹林帯を下ると中岳からの道とあわさり、沢を横切ると行者小屋に着く。行者小屋で休憩し、みかんや菓子を食べて水分とエネルギーを補給する。



中山乗越まで少し登り、昨日登った道を通って赤岳鉱泉に着く。

テントを撤収し、荷物を分担してそれぞれザックにパッキングし下山する。

下山は昨日登って来た北沢コースを下る。縦走の疲れも見せず皆元気で、ハイペースで下り予定より早く美濃戸に着いた。温泉に寄る予定だったが、女性達は温泉に入るよりも早く帰

りたいと希望し温泉はカットする。

中央道は渋滞の情報なので、佐久南ICから上信越道経由で帰ることにする。

上信越道は渋滞も無く順調で、途中横川SAで夕食を食べ、野木町役場へ予定よりも早く着いた。二日間とも晴天に恵まれ、若い人たちは有意義なテント泊山行を体験できたと思う。

